

姫路市で回収したペットボトルは 100%ペットボトルとして再利用

姫路市、遠東石塚グリーンペット、キンキサイン、伊藤園の4者が連携し、「ペットボトル資源循環型リサイクル実施に関する事業連携協定」が8月に締結。域内で回収したペットボトルを域内でリサイクルするモデルとなる事業で、2023（令和5）年4月の稼働を目指します。



「ボトルtoボトル」のメリット

日本のペットボトルのリサイクル率は85.8%と世界的にみても非常に高い数字。ペットボトルの多くは食品ドレーや繊維などにリサイクルされています。しかし、ペットボトルが再びペットボトルにリサイクルされる「水平リサイクル（ボトルtoボトル）」の割合は全体の12.5%と低くなっています（表①）。

ペットボトルは通常ペットボトル以外のものに再生されると、再びペットボトルになることは困難です。しかし、ペットボトルとして再生されるときも、その後もペットボ

トルとして利用でき、資源を循環させることができます。このように「ボトルtoボトル」に取り組むことで新たな石油由来資源の使用量と廃棄物、二酸化炭素(CO₂)の削減にもつながります。

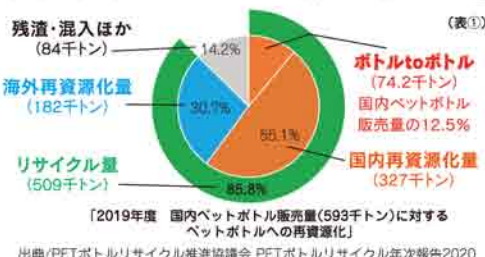
官民が連携するリサイクル事業

そこで、8月に姫路市では遠東石塚グリーンペット（本社・茨城県）、キンキサイン（本社・姫路市）、伊藤園（本社・東京都）の4者で「ペット

ボトル資源循環型リサイクル事業連携協定」を結び、域内で大規模に「ボトルtoボトル」事業を展開すること



8月23日に姫路市役所での締結式に出席したキンキサイン代表取締役会長・山口義弘さん（写真左）と清元秀泰姫路市長、リモートで出席の伊藤園代表取締役会長・本庄八郎さん（左下）と遠東石塚グリーンペット取締役社長・安田真一さん



これにより「ボトルtoボトル」で生まれた製品を姫路市を中心とした地域で消費し、域内で再びペットボトルにリサイクルする「域内資源循環」の仕組みが整います。域内循環は全国の自治体でも例がなく、注目と期待を集めています。

ペットボトルの「回収・手選別・圧縮梱包」を姫路市が、「再資源化」を姫路市飾磨区に新しく建設される遠東石塚グリーンペットのリサイクル工場で行います（稼働は2023年4月予定）。「製品製造」は、関西エリアの「お〜いお茶」（伊藤園）の製造を一手に担うキンキサイン。「飲料製品の販売」は世界初のペットボトル入り緑茶飲料の開発をした伊藤園です（表②）。

「ゼロカーボンシティ」を目指して

伊藤園は今年6月に2025年までに「ゼロカーボンシティ」を目指す上茶「ブランド」のペットボトルで、今回の締結は限りある資源を100%リサイクル源の有効活用とCO₂の削減素材などに切り替えることに大きく寄与すると期待しを指すと発表。同社代表取っています」とコメント。一か縮役員の本庄八郎さんは「ペットボトルを作るのに比べて、積極的に広げていきた約6割のCO₂排出削減が「この「姫路モデル」を事例とべ、「ボトルtoボトル」は期待され、域内輸送で排気ガスの削減にも、自分が捨てた2025年までにCO₂ ペットボトルがリサイクルさの実質排出ゼロを目指す「ゼロ」を宣言し問もなくです。

「ボトルtoボトルリサイクルのイメージ(域内資源循環)」 (表②)



Memo

「必分(ひつわけ)にみ分別」でゴミ分別の方法を動画で分かりやすく紹介

姫路市環境局美化部リサイクル課

tel:079-221-2406